

始良・伊佐地域青少年育成だより

発行
始良・伊佐地域青少年育成推進協議会
第37号 平成30年11月

〒899-5212 始良市加治木町諏訪町12
始良・伊佐地域振興局総務企画課地域振興係
TEL 0995-63-8109 FAX 0995-63-8108



「平成30年度『家庭の日』絵画・ポスター・標語コンクール」入賞者決定



松本花穂里(始良市立帖佐中2年)さんが
ポスターの部で最優秀賞!! 優秀賞も絵画の部で3名!!

上記コンクールの審査結果が発表され、ポスター部門で最優秀賞獲得者が1名、優秀賞が小学生の絵画部門で3名、優良賞が絵画部門で3名、ポスター部門で1名、標語部門で3名、努力賞が絵画部門で5名、ポスター部門で1名、標語部門で4名入賞しました。いずれも素晴らしい力作ばかりでした。入賞者の皆さん・指導者の先生方・家族の方々など関係者の皆様本当におめでとうございました。以下、入賞者の皆さんと上位入賞者の作品を紹介します。

個人賞(始良・伊佐地域関係分)

部門	賞の種類	学年・種別	氏名	学校名	学年
絵	優秀賞	小学校低学年	神園すみれ	始良市立柁城小学校	2
		小学校中学年	竹之内 莉乃	霧島市立宮内小学校	3
		小学校高学年	並松 美乃	霧島市立国分小学校	5
	優良賞	小学校中学年	唐仁原せな	霧島市立日当山小学校	3
		"	水枝谷 美月	伊佐市立曾木小学校	3
		小学校高学年	若松 つぐみ	霧島市立国分小学校	5
画	努力賞	小学校低学年	大内山 碧海	霧島市立日当山小学校	1
		小学校中学年	益満 大和	始良市立柁城小学校	4
		"	下戸 良佑	湧水町立轟小学校	4
		小学校高学年	徳永 有紀	霧島市立国分北小学校	5
ポスター	最優良賞	中学校	松本 花穂里	始良市立帖佐中学校	2
	優良賞	小学校高学年	下戸 悠太郎	湧水町立轟小学校	6
	努力賞	小学校高学年	本村 カエラ	霧島市立横川小学校	5
標語	優良賞	小学校中学年	水枝谷 紗愛	伊佐市立曾木小学校	3
		小学校高学年	湯浅 梨乃	霧島市立国分小学校	5
		"	武田 悠花	霧島市立青葉小学校	6
	努力賞	小学校低学年	奥 心花	霧島市立三体小学校	1
		"	作道 陽佳	伊佐市立本城小学校	1
		小学校中学年	中村 愛花	霧島市立青葉小学校	4
小学校高学年	澁谷 晋尚	始良市立竜門小学校	6		

標語の部

優良賞
「ねえ聞いて。」 食たくかこむ えがおのわ 伊佐市立曾木小学校 3年 水枝谷 紗愛
笑いあり けんかあり 本気で話す 家族はいいな 霧島市立国分小学校 5年 湯浅 梨乃
笑い声 響く家庭に 福来たる 霧島市立青葉小学校 6年 武田 悠花
努力賞
うれしいな たのしいな みんなにここに ごはんのじかん 霧島市立三体小学校 1年 奥 心花
おかあさん ほんとうはやさしい おこりんぼ 伊佐市立本城小学校 1年 作道 陽佳
あいさつで 家族の笑顔が かがやくよ 霧島市立青葉小学校 4年 中村 愛花
はなれても 心でつながる 家族の輪 始良市立竜門小学校 6年 澁谷 晋尚

★ 県青少年育成県民会議を検索すると県内の入賞作品を鑑賞出来ます。

★ 下記の要領で作品が展示されます。



展示会場	展示期間	展示内容
県青少年会館	H31年3月23日(土) ～ 5月31日(金)	優良賞以上

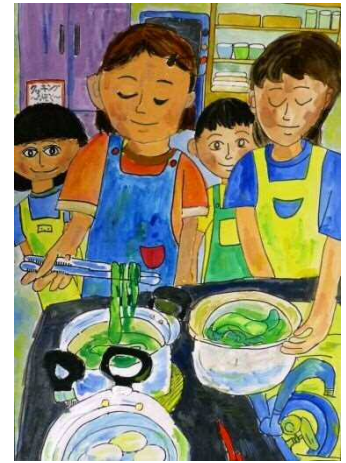
※ 毎月の「家庭の日」に家族団らんの時間を設定しましょう!!



始良市立柁城小2年 神園 すみれ



霧島市立宮内小3年 竹之内 莉乃



霧島市立国分小5年 並松 美乃



霧島市立日当山小3年 唐仁原 せな



伊佐市立曾木小3年 水枝谷 美月



霧島市立国分小5年 若松 つぐみ



始良市立柁城小4年
益満 大和



湧水町立轟小4年
下戸 良佑



霧島市立国分南小5年
白尾 くる実



霧島市立日当山小1年 大内山 碧海



始良市立帖佐中2年 松本 花穂里

絵画・ポスター
入賞作品



湧水町立轟小6年 下戸 悠太郎



霧島市立国分北小5年 徳永 有紀



霧島市立横川小5年 本村 カエラ

「県少年の主張」大会



篠原 真夏 さん 最優秀賞 !!
宮田 航志 君は優良賞に !!
応募総数 4,622 点の中から



「第40回（平成30年度）少年の主張鹿児島県大会」が8月1日（火）に鹿児島市立甲東中学校で開催されました。4,622点の応募者の中から10人が選考され、本大会に臨みました。その中に本地区から横川中学校3年 篠原 真夏さんと、牧園中学校2年 宮田航志 君が入り、熱弁の結果、篠原さんが最優秀賞を、宮田君が優良賞を獲得しました。

以下、篠原さんの主張内容を紹介します。



「兄の遺したもの」

霧島市立横川中学校3年 篠原 真夏



悪性神経鞘腫。幼少期に発症するのは何千人に一人という極めてまれな病気です。ですから、この病名を聞いたことがないという人がほとんどでしょう。私の2番目の兄は、今から17年前、この病魔に侵され、わずか7歳という若さでこの世を去りました。当時、私はまだ生まれておらず、兄のことを直接は知りません。ですが、我が家は、今も、兄と一緒に生きているのです。家族とは何かを問われる現代において、私は声を大にして皆さんに伝えたい。家族とは何かということ。膝が痛いと言ってきた兄を連れ、母は、何軒もの病院を訪ねました。「甘えているだけじゃないですか。」最初はどこの病院でもそう言われました。しかし、看護師でもある母は、これはただごとではないと直感が働き、鹿屋の県立病院に向かいました。

「背中に腫瘍があります。今すぐ入院を。」担当の医師からそう告げられ、その日から母と兄の病魔との闘いが始まったのです。

検査の間、できることと言えば、傍らで本を読んであげることしかありませんでした。自分は一日でも長く一緒に居られたらいい。

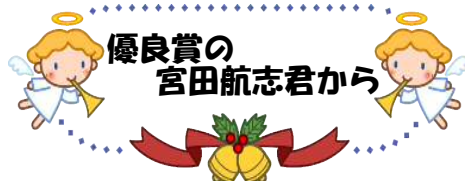
そう思いながらも、小さな体に管を入れられる我が子の姿を見て、本当にこれでいいのだろうか何度も自問したそうです。そして、1年10カ月の闘病むなしく、「最善を尽くしましたが、今日が最期です。」そう医師から宣告された早朝、「よく頑張ったね。もう頑張らなくてもいいんだよ。」と母はささやきました。

私の家には、兄の姿を映したビデオが今でも大切に保管されてあります。そこには仲良く映る二人の兄の姿があります。気持ちよさそうにすやすやと眠っています。その映像を初めて目にしたとき、私はあふれる涙を止めることができませんで

した。母が私に教えてくれたのです。これは、病院から帰る日に撮影されたものだと。そうです。霊柩車に乗せたくなかった母は、我が子をしっかりと胸に抱きしめ、我が家に帰りました。兄弟なのになかなか会話をする時間もなかった二人の最期のひととき。兄は、声を発することのない弟に何と声をかけているのだろう。「お母さん、辛かったですよ。」心の声となって、涙が私の頬を伝ってゆきます。「お兄ちゃんがいたから、そして、あなたが生まれて来てくれたから…。」母はそう答えました。

「血は水よりも濃い」と言いますが、残念ながら、世の中には、家族同士でいがみ合い、殺人まで起きてしまうニュースが後を絶ちません。そんなニュースを耳するたび、私は胸が苦しくなります。愛の宣教師と言われたマザーテレサは「愛は家族から始まり、平和は家族から始まる。愛があるところに安らぎや喜びがある。」と説いています。家族とは何か。私は思います。家族とは、愛が生まれるところなのです。たとえそれが小さな愛だったとしても、それはいずれ世界を動かすでしょう。そして、人類を平和にし、みんなに幸せをもたらしてくれると思うのです。最後まで必死に生き抜いた私の小さな兄と、最期まで必死に守ろうと闘い抜いた母が教えてくれました。

私は、今、とっても幸せ。そう、いつも支えてくれる母がいて、口数は少ないけど頼れる兄がいて、いつも見守ってくれる天使のような笑顔の兄がいるから。複雑な現代社会に生きる今だからこそ、私たちは、家族の在りようを今一度考え、一人一人が家族とは何かの答えを探す必要があるのではないのでしょうか。



私は「身近な火山」という題で発表しました。本番まで先生方と十分練習もしたので、自信をもって発表することが出来ました。県下の中学生がわずか10名だけ出場する、すごい大会で、一人一人の考え方・見方の違いを知ることが出来、とても貴重な経験でした。

「かごしまリーダー塾」参加者の声



平成30年度「かごしまリーダー塾」の集合研修は、8月3日から6日までの3泊4日間に渡り、鹿児島県立青少年研修センター等で実施され、本地区から4名の生徒が参加しました。その参加者の声をレポートします。

私は今回、「かごしまリーダー塾」へ参加させて頂きました。研修の中で様々な職業の方や、活動をしている方の講話を聞きました。また、実際に研修センターの外へ出て、鹿児島の歴史について学ぶなど、様々な体験をすることが出来ました。

初めて知るような事ばかりで、自分の将来を見つめ直す良いキッカケになりました。また、県内の様々な高校から同じ1年生が集まり、寝食を共にすることで大きな刺激を受けました。そして、それは私のかげがえのない大きな財産になりました。研修を通して、自分の価値観がガラリと変わり、世の中における物の考えを改めることが出来るようになりました。研修の成果を大切にしていきたいです。

国分高校1年
有村 真菜



私は、参加する前はとても不安でしたが、参加しているうちに不安はどこかへ行ってしまいました。

リーダー塾に参加して学んだことや感じたことはとても多かったです。その中で一番心に残っていることは、「リーダーに成る人は周りと同じ事をしてはいけません。それを聞いたとき、とても納得出来ましたが、分かっていても出来ていきません。それでも勇気をもって取り組みたいと思いました。参加したメンバーと人との在り方について話し合いました。各々の答えは異なっていました。メンバーの考え方を参考にクラスのまとめ方を改めたいと思いました。とても貴重な4日間となりました。

加治木高校1年
原田 ほのか

私が、この塾に参加して学んだことの一つは、リーダーとしての心構えです。

初日の高崎さんの講話の際、高崎さんが「皆の前で発表してくださいと言うと、多くの方は黙り込むんです。何ででしょう。」と問いかけました。「その理由は、過去に発表した時、『それは違うよ。』と否定されたことがあり、またそうなることを恐れているんだ。」と教えて下さいました。そう言えば、私もそのような経験が確かにありました。「みんな違って当たり前」と考えて行動したいと思いました。これから、リーダーという立場になったら、必ずこの話を思い出し、誰もが自分の意見を述べ易い雰囲気づくりに取り組みたいと思っています。

大口高校1年 川原 雪乃

教室の掲示板に貼ってあった貼り紙の中に「鹿児島のリーダーを育成する。」という言葉があり、それに興味を持ち、今回の研修に参加しました。この研修で現在の思考・環境・経済を見つめ直し、これからのリーダーの在り方について学びました。私が特に見つめ直す事が出来たと思うことが2つあります。

1つ目は、コミュニケーションの大切さです。情報や考え方を共有し、よりよい意見にするという事の大切さを知りました。

2つ目は、自己理解を深めるという事です。たくさんの考え方を知る事が出来、自分のスキルアップが出来たと思います。私は、この研修を通して成長する事が出来ました。色々な考えかたを知り、自分の中身をつくり、周囲に発信出来るようになりたいです。

加治木高校1年
向井田 珠莉亜

中央写真は「上」…「ワークショップ」で理想のリーダー像を語る様子 「下」… 茶道体験の様子

霧島市(横川地区)の青少年健全育成活動



霧島市横川地区子ども会育成連絡協議会

『丸岡公園スケッチ大会』

霧島市子ども会育成連絡協議会おすすめ事業

【講師からスケッチの説明】



【講師からのアドバイス】

霧島市横川地区子ども会育成連絡協議会では、10月20日(土)に「丸岡公園スケッチ大会」を開催しました。この大会は、霧島市子ども会育成連絡協議会のお薦め事業の一環として、毎年横川地区で開催しています。

参加者は、本市内在住の幼児1名、小学生25名、中学生1名の合計27名でした。素晴らしい秋空の下、参加者は、それぞれ思い思いに、展望所や日本庭園など描きたい場所を探して、保護者と一緒に移動しました。描きたい場所が決まると、「さあ、描くぞ!」と意欲的にスケッチしていました。

講師として依頼した、霧島地区の社会教育コーディネーターの古川正彰先生の指導のもと、参加者全員が熱心に絵を描いていました。

また、横川中学校の美術部の先生と部員10名も駆けつけ、大会を盛り上げてくれました。

【庭園でスケッチ】



【作品の講評】

2時間ほどのスケッチ時間でしたが、参加者全員が時間内に書き終わりました。スケッチ終了後は、研修館に移動し、描き終わった力作揃いの絵を室内に展示しました。その後、講師の古川先生が講評を行いました。それぞれの作品の上手な点を誉めたり、もう少し工夫して欲しい点などを分かりやすく説明したりされたので、参加者の皆さんは、うなずきながら熱心に聞いていました。

このイベントに参加した親子は、「お陰様で、子どもは、友達との交流も深まり、その上に、もっと上手に描くための手法も学びました。」と、とても喜んでいました。



山田の里 かかし祭り 中学生が大活躍！

好天に恵まれた9月23日、秋分の日。山田団地造成地に於いて、「第25回山田の里かかし祭り」が開催されました。本年初の試みとして、出店・舞台・かかし展示を一箇所で開催し、今まで以上に大規模な祭りとなりました。前日の準備から当日ボランティア、舞台出演など、山田中学校の生徒多数が、しっかり支え、重要な役割を果たしました。特に当日のボランティアでは、来場者の心に届くサービスが必要でした。彼らは、そのためどのように行動すれば良いかを常に意識しながらサービスに努めていました。来場者からは、「積極的に動きますね！」と嬉しい声が聞かれました。これからもどんどん地域に貢献できる中学生になって欲しいと願っています。



← 当日ボランティアの様子 →

弁当販売や会場案内、うちわやプログラム配布、後片付けなど、どの担当者も心に届くサービス振り。



また、1・2年生はそれぞれ特徴あるかかしを作って出品し、会場を盛り上げました。それぞれ賞を獲得でき、とても嬉しそうでした。



文責 始良市立山田中学校
校長 森園 太介

← 2年生バドスズメ

イオンタウン賞

1年生凱旋門からひよっこ
り西郷どん&ツン →
桜島も驚くで賞



地域で育む小野っ子

霧島市立小野小学校



小野地区には、青少年教育の一環として、地域の人々が子供たちとのふれあいを通して郷土のよさや歴史を伝え、子供たちを健やかに育てていくことを目的とした「小野里みのり会」があります。子供会担当者やPTA、地区公民館の役員など20人が実行委員となり、年2回の活動を企画・運営します。故郷を流れる天降川に親しんでほしいと、8月11日に第1回「カヌー・ドラゴンボート体験」を実施しました。小学生31人、幼児や保護者、実行委員を含む67人が参加し、「天降川カヌーラバー」のメンバーによる指導のもと、1～3人乗りカヌーやドラゴンボートを体験しました。

↓「上手い！！その調子！！」



「ああ！楽しかった！！」全員でハイチーズ！！↑

初めてのことで尻込みしていた子供たちも、回数を重ねると次々と一人乗りのカヌーに挑戦し、時間が足りないほどでした。「初めはできるかなと思ったけど、楽しかったのでまたやりたい。」という子供たちの生き生きとした表情に実行委員も大満足でした。

【参加者の声】

★1人乗りは難しかったけど、お父さんと乗ったり3人で乗ったりして楽しかったです。
1年 迫田 真帆

★始めは出来るかなと思ったけど、乗り始めるととても楽しかったの、また乗りたいです。
2年 豊住 悠真

1人乗りは、初体験でなかなか緊張。でも上手く乗れた。3人乗りは、「声を掛け合うと良いよ」とのアドバイスを良く進み楽しかったです。
6年 原田 琉空

文責 霧島市立小野小学校長 祖母仁田 政明

高校生の地域貢献活動紹介

ひっとべ 世界へ
SSH 霧島探究プロジェクト

SSH 国分高等学校紹介

「まいづるん」は国分
高校SSHキャラクター



平成30年から国分高校は、SSHに指定された。先進的な理数教育を実施している高等学校をSSHとして指定し、平成30年度は、全国で204校が指定されている。本校SSHは、「ひっとべ 世界へ SSH霧島探究プロジェクト」をキャッチフレーズに、霧島が有する自然環境や歴史・文化・先端企業などの多彩な探究資源を活用した、探究的な学習に学校全体で取り組んでいる。さらに、フィールドワークや海外研修を行い、持続可能な社会に貢献できるグローバル人材の育成を目指している。

また、小・中・高の相互交流を推進することで、**地域の理数教育のレベルアップに寄与**するとともに、生徒のコミュニケーション能力や自己肯定感の向上も目指している。

具体的な取組の一環として、6月16日（土）イオン準人国分店において、SSHサイエンスフェスタ2018を開催した。本校理数科1・2年の生徒たちが地域の子供たちへ科学の面白さと奥深さを伝えようと、様々な趣向を凝らした実験やパフォーマンスを披露した。

SSH全国生徒発表大会で文部科学大臣表彰(全国1位)受賞!

生物班が、「幸屋火砕流から7300年立ち直っていない?大隅諸島のエンマコガネと幸屋火砕流の関係」というテーマで研究し、8月に神戸で開催されたSSH全国生徒発表大会でその成果を発表した。その結果、見事に文部科学大臣表彰を受賞するという快挙を成し遂げた。



龍桜高校生の地域交流

吹奏楽部 「わくわくジャンボリーマーケット」

8月25日、青雲タウン芝の広場で、「あいら街活性化プロジェクト」主催のイベントに出演した。当日は、明治維新150年にちなんで「西郷どん」・「篤姫」・「おはら節」の3曲に合わせてマーチングを披露した。



モードビジネス科 「校外サロン」

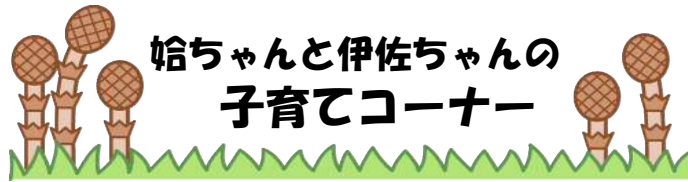
8月24日、ザ王病院デイジービスにおいて、モードビジネス科トータルビューティーコースの生徒が、利用者様18名へハンドマッサージとネイルケアのサービスに努めた。初めは緊張していた生徒たちも、利用者様との会話を通して徐々に緊張もほぐれ、笑顔一杯で対応した。また、施術終了後、綺麗になった爪を互いに見せ合い笑顔になった様子を見てやりがいも感じていたようだった。



「生活応援服の補修」

9月18日～21日・25日～28日・11月19日～22日、モードビジネス科ファッションビジネスコースでファッションについて学ぶ高校生が、学習の一環として、地域の方々を対象に服の補修を1枚50円程度で手伝っている。ボタン付けやネーム付けなど、簡単だけど時間がないと困っている地域の方のお役に立ちたいと考えて行っている。同時にこの事業は、生徒たちにとって多くの服の構造などを学ぶ機会ともなっている。詳しくは、本校ホームページをご覧ください。





良好な親子のコミュニケーションは「3Cの原則」で！！

- 始ちゃん： K子ちゃんの「実行力」はどうね？「三つの力」の効果はどうだったかな？
- 伊佐ちゃん： すごい効き目よ！あれからすごい頑張りで、「お母さん嬉しいな！」の連発よ。本当に有難う！助かってるわ！！厚かましいけど、また聞いて良いかな？
- 今度は、注意した事を直ぐ実行しないので困っているのよ。「ほら！今言ったでしょう！」と言うけど、全然効き目がないのよ。良い方法はないかな？
- 始ちゃん： 伊佐ちゃん。子どもに、注意を聞かせるためには「3Cの原則」があつてね、その方法で注意すると効き目が大きいらしいよ。
- 伊佐ちゃん： ええ！ ということ？ 「**3Cの原則**」ってどんな原則なの？
- 始ちゃん： 伊佐ちゃん。それはね「**カム(穏やか)**」「**クローズ(近づいて)**」「**クエイト(小声で)**」の3つなの！！その意味は、穏やかな顔で、近づいて肩を抱いたりして、教え諭すように小さな声で注意する事だつて。
- 伊佐ちゃん： なるほど！ 私は気付いたら直ぐその場から、しかも、大きな声で注意したわ！
- 始ちゃん： そう！そう！間違っても、「こらっ！～するな！」と、その場から大声で怒鳴らない事よ。大声で怒鳴った場合、その時は従っても、周りに人がいない時は絶対守らないんだつて！つまり！！心に届く注意・しかりではなかったのね。必ず、子どもの「**心に届く・響く注意**」にすることが大事ね。
- 是非 K子ちゃんとやってみてよ！
- 伊佐ちゃん： 分かったわ！いい方法！！早速 家でもやってみるわ！聞いてみるもんだね。



青少年育成コーディネーターが各地域で青少年健全育成に奮闘！！



青少年育成コーディネーターとは？

各市町に配置され、各市町の青少年育成の中核になり、各小学校区青少年育成組織へ健全育成活動の活性化方策をアドバイスしたり、各種青少年健全育成活動をコーディネートしたりするほか、各市町における青少年の健全育成に関する現状把握や関係機関・団体との連絡調整を行います。



上記の青少年育成コーディネーターが、霧島市4名、伊佐市・始良市・湧水町は各2名ずつの合計10名が配置され、上記の通りの活動に専念しておられます。昨年度の途中からは、青少年育成指導員と一緒に学校訪問もして貰っています。それぞれに自分の仕事や地域の重要な役職を兼務しながら、これからの地域や社会を担う青少年の健全育成活動に大奮闘中です。活動は、もちろんボランティアであり、唯々感謝するしかありません。本当に頭が下がります。この「育成だより37号」を御高覧くださった皆様は、出会われたら是非「有り難うございます！！」と感謝・労いの声かけを宜しくお願いします。